

情報提供：富山県におけるマイワシの漁況について

海洋資源課 主任研究員 南條 暢聡

1 背景・ねらい

富山県における 2017 年の総漁獲量は 12,667 トン（水産研究所調べ）で、前年比 57%、平年比 55%とかなり少ない漁獲量であった（図 1）。このような総漁獲量の状況について、その主たる要因となったのがマイワシ漁獲量の減少である（図 1 の棒グラフ上から 2 つ目がマイワシ）。

近年、日本各地でマイワシの漁獲量が増加傾向を示しており、富山県でも 2016 年の漁獲量は 8,173 トン、県内の年間総漁獲量の約 37%を占める豊漁であった。しかしながら、2017 年にはマイワシの漁獲量が 62 トンまで急減した（前年比 0.8%、平年比 3%）。このような急激な減少について今のところ要因は不明であり、現在も他研究機関と協力しながら調査・研究を進めているところである。

今回は調査の中で整理した富山県における過去および近年のマイワシの漁況について情報提供という形で報告する。

2 概要

近年みられるマイワシ漁獲量の増加傾向は 2010 年以降から始まった（図 2）。ただし、2014 年、2017 年には漁獲量の急激な減少があり、年変動の大きな増加となっている。一方、マイワシの漁獲量は 1970 年代にも増加しており、近年のような急激な減少はみられず、1979 年に 10,500 トン、1980 年に 10,062 トンに達した。その後、漁獲量は減少傾向に転じ、1990 年代後半には 100 トン台にまで減少した。

近年と 1970 年代の漁獲量増加パターンには漁獲盛期においても違いがみられた。近年の漁獲盛期は 3～5 月が中心であるが、1970 年代の前半期は 6～9 月の漁獲量が多くなり、後半期にかけて 1～3 月にも漁獲量が多くなる傾向がみられた（図 3）。富山県では、春季は小羽～大羽が漁獲の主体であるが、夏季になると平子と呼ばれる体長 10cm 未満の当歳魚が漁獲の主体となることから、1970 年代の増加傾向は当歳魚の大量漁獲から始まったと考えられる。

このように近年の漁獲量の増加は過去の増加パターンと異なる部分がある。このことについて、水産庁の資源評価ではマイワシ対馬暖流系群（日本海から東シナ海に主に分布しているマイワシ）の分布や回遊が変化している可能性を指摘していることから、今後も引き続きマイワシの分布や来遊パターンに関する調査を継続していく予定である。

3 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 海洋資源課

担当：南條 暢聡

TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

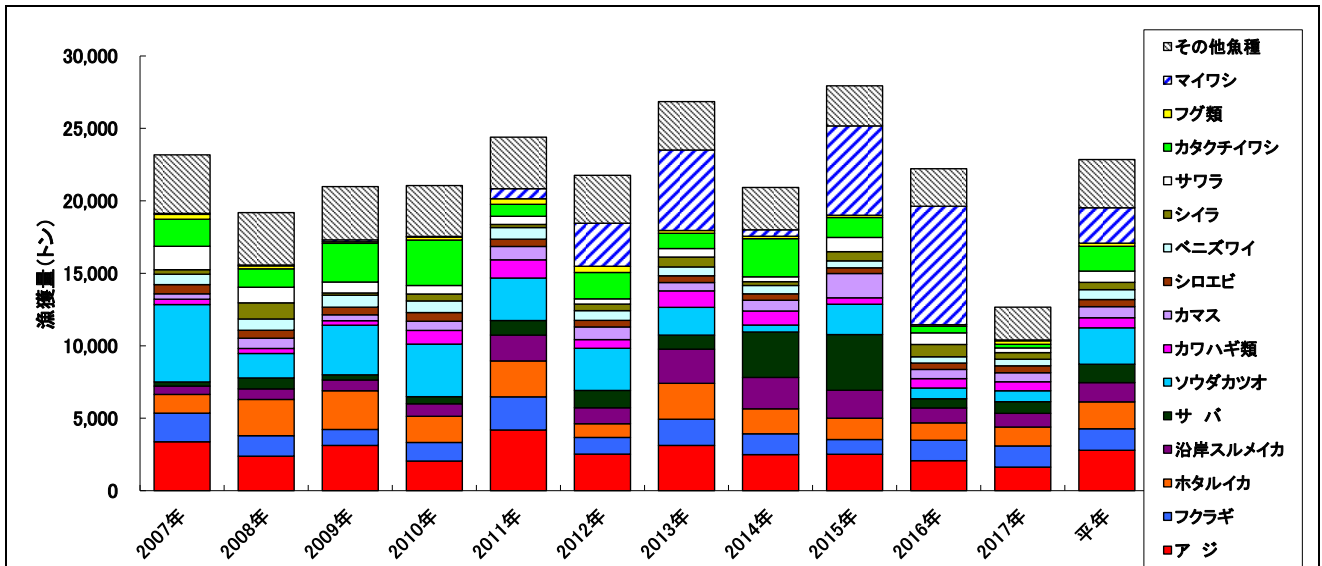


図1 富山県の年別・魚種別漁獲量 (平年は過去2007-2016年の平均値)

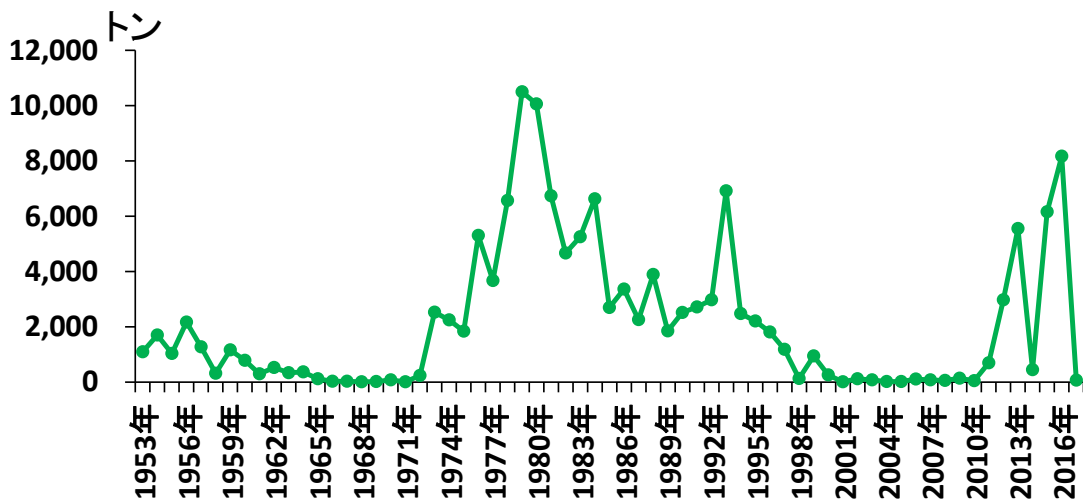


図2 富山県におけるマイワシの年別漁獲量

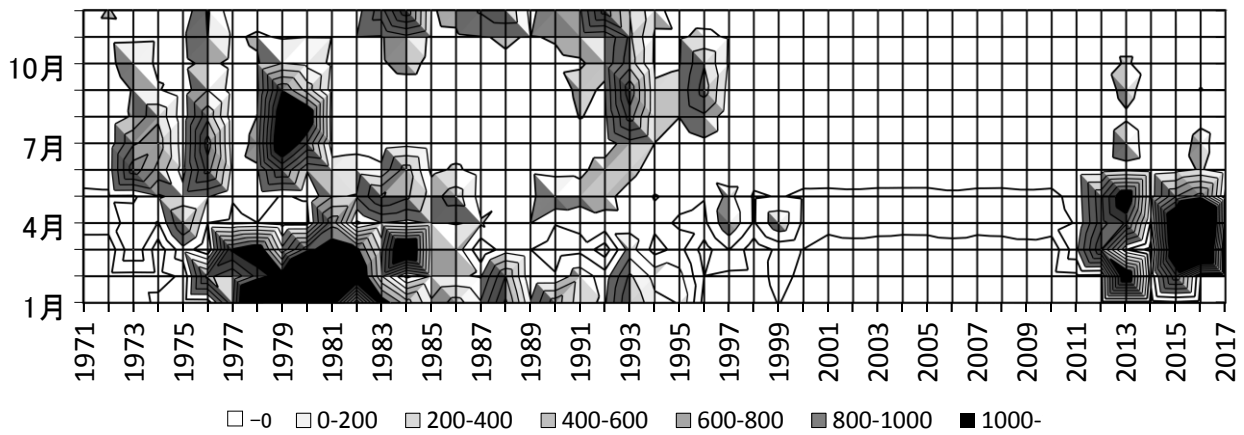


図3 マイワシの年別・月別漁獲量の偏差 (1971-2017年平均値との差)